

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491500037	事業の開始年月日	平成21年4月1日	
		指定年月日	平成21年4月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ白寿庵真鶴			
所在地	(〒259-0201) 神奈川県 足柄下郡 真鶴町 真鶴 1819-1			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25 名	
		通い定員	15 名	
定員等		宿泊定員	5 名	
		定員計	名	
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果 市町村受理日	平成27年3月6日	
ユニット数		ユニット	ユニット	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ 地域に長く暮らしていらっしゃるご利用者様方が、小規模多機能居宅介護をご利用することで、地域の生活を引き続きつつ、安心した生活を顔見知りの関係の中でしていただき、在宅での生活を続けていける。</p> <p>・ 早朝（朝7時前）から、夜間帯（19時～21時頃）までの通いの利用を、ご家族の都合に合わせて行っており、ご利用者様がご家族と在宅での暮らしを継続できるようになっている。</p> <p>・ 地域の方々とも顔見知りであることから、地域の行事等で自治会の協力を頂けることや、行事に出かけた際地元の方々からの協力を得られている。</p> <p>・ 季節ごとの飾りと行事を大切にしているので、ご利用者様やご家族から好評である。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年2月17日	評価機関 評価決定日	平成27年3月6日

【事業所の優れている点】

◇利用者の心身状況と居宅環境を踏まえ、最適なサービスを提案している

- ・ 事業所は管理者がケアマネージャーを兼ねており、看護師とともに利用者居宅を訪問し、利用者にとって最適な、「通い」、「泊り」、「訪問」のバランスを提案すると同時に、当該「小規模多機能型居宅介護」で最適を全うできない場合には、真鶴町の行政と相談の上、別の最適福祉サービスを提案するようにしている。

◇理念の唱和で介護サービスを開始する職員の毎日の介護姿勢

- ・ 「利用者が自由な時間を大切にし、職員全員で安全なかゆい所に手が届くケアを目指し、地域や家族との交流を支援し、健康で自立した毎日を支援します」の事業所理念を、毎日唱和しながら、職員は心のこもった、日々の介護支援を実践している。

【事業所が工夫している点】

◇併設のデイサービス共用のパワーリハビリ設備の活用

- ・ 施設は9つの機能訓練装置を持ち、小規模多機能とデイサービス利用者共用で機能訓練に利用している。利用者の希望で、真鶴駅前ロータリーに面する施設の機能訓練室を外から見えるようにカーテンを開き、外部への宣伝にも一役買っている。

◇外部委嘱給食業務の運営の工夫

- ・ 夜食は地元業者に委託すると同時に、昼食については施設独自に地元商店を選び、肉屋、魚屋、八百屋、他惣菜専門店の惣菜メニューを選び、利用者には地元の有名な店名を紹介しながら提供し、利用者から喜ばれている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ミモザ白寿案真鶴
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	レ	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	レ	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	レ	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	レ	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	レ	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	レ	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・サービスに反映できる独自の理念を作り、常に実践できているかを管理者と職員で話し合っている。	・地域に根ざした、より快適な生活を支援するように「利用者の自由な時間、安全なケア、地域との関わり持続、健康と自立」を謳った事業所理念を全職員が参加して作り、毎朝、唱和して介護に入っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に加入しており、祭りや運動会など地域の行事への参加を要請され、参加に対しても快く受け入れてもらっている。 ・利用者さまの知人や商店の方、地元の小学校・幼稚園の生徒たちが、気軽に訪問してくれている。	・利用者は近隣の住民であるため、祭りなど地域の行事に参加する度に顔馴染みと旧交を温めており、皆、地域行事に参加することを楽しみにしている。 ・地元住民のフラダンスボランティアなども受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地元の方の健康を目指して、月に1回マシンを使った運動や、ミモザ独自の体操を紹介する機会を作っている。また、イベントを行うときに、骨密度を測っていただいたり、マッサージ師から腰痛体操を教えていただいたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月ごとに地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、診療所職員、家族代表、当施設職員の参加で開催し、要望等を共有しサービス向上に生かしている。	・運営推進会議では、散歩先の紹介や地元行事への参加誘いなど幅広い提案を受けている。車いす利用者を含む花見の際は自治会長の支援で駐車禁止である真鶴城址への車乗り入れ許可をとることが出来た。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・真鶴町役場では、日頃から困難事例の相談や運営についての相談等気軽に受けてもらっている。	・管理者は毎月真鶴町地域ケア会議で行政担当者と、地域福祉全般について話し合っている。また、当施設利用を希望する場合、本人状況や家庭環境を考慮して、他の適正施設を行政に照会してもらうなど個別相談にも乗ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束禁止マニュアルがあり、職場研修でも、スタッフと話し合い拘束をしないケアを全員で意識して取り組んでいる。 ・玄関は、すぐに交通量の激しい道路があることから施錠しているが、事業所内は自由に行き来ができてい 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所では「身体拘束排除宣言」を玄関に掲示し、「身体拘束危険防止委員会」を月1回開き、職員は順番に講師となってテキストを準備、講義を行った上、話し合っている。 ・玄関は安全上施錠しているが、施設内は全て解錠している。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用契約書、重要事項説明書に明記している。虐待、拘束の厳禁を各職員に徹底するとともに、外部、内部研修への積極的参加促進を行っている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉権利事業や成年後見制度についての研修に積極的に参加し、職員間で内容の共有化を図り、意識向上に努めている。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用契約時にしっかりと説明し、納得を頂いた上で、契約をしている。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、利用者やご家族と職員が信頼関係を築き、それぞれが自由に意見を言えるよう努めている。 ・連絡帳や手紙にて、要望等いただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からは来訪時の会話やメールで色々な要望が出ており、特に「泊り」「通い」「訪問」のケアプラン上のバランスについての注文が多い。事業所としては曜日ごとの職員体制にも関係するため、可能な体制変更も含め、歩み寄った対案を提示して進めている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月スタッフ会議を行い、業務改善などの話し合いの機会を持っている。 ・毎日の申し送り時やノートにて、管理者とスタッフの意思疎通を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は職員の主体的行動、サービス実践を望んでおり、「報・連・相」の基本にたって複数の職員と相談の上進めている。新規受入で各職員は意見を出し合い、難しい利用者が短時間で施設に馴染んだ成功例もある。 	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者は、勤務実態について毎月把握しており、給与水準の向上に努めてきている。 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者は、社内研修のためのセンターを完備し、それぞれの立場で育成をおこなう取り組みが確率している。 ・職員が経過雨的に外部の研修を受けられるように体制を整えている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・真鶴町の事業者連絡会に参加し、ネットワークを作っている。 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始前相談により、ご利用者が持っている不安、困難、疑問を時間をかけてお聞きするなど「傾聴と受容」の姿勢を忘れずに信頼関係を気づくよう努めている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・利用開始前相談により、ご家族が持っている不安、困難、疑問をお聞きして、必要と思われる情報を積極的に提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談をしっかりと聞き、小規模多機能型居宅介護のサービスが適切か入居が適切かどうか見極め、また、一番適切なサービスを探り、助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で、それぞれの利用者の得意だったことなどを教えていただき、些細なことでも目標を持って取り組んでいただけるようにして、お互いが信頼していけるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族とコミュニケーションを良くして、本人と一緒に支えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・今まで大切にしてきた友人や親族と自由の意交流できるように、訪問を歓迎し、要望によって一緒に馴染みの店へ、買い物の同行をしている。	・地元真鶴町内会の祭りや運動会に利用者が参加すると、地域の旧い友たちとの再会が多く、それがきっかけで「通い」「泊り」の際の施設来訪と繋がり、事業所は茶菓などでもてなし、「通い」では、友人も一緒にゲームを楽しんだりしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者が孤立しないで互いに交流できるよう、職員が配慮している。気のあった仲の良い利用者同士で外出時散策したり、席の配慮をおこなうなど声かけに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ご利用を終えたご利用者さまのご家族やご本人の相談にも、積極的に乗っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・毎日の生活の中から、利用者それぞれの思いや希望を把握するように努めている。聞き取り困難なご利用者に関しても、家族の意向を聞き取り、職員の意見なども反映して、情報を共有している。	・利用者一人一人の「申送りノート」があり、職員の積極的な声掛けへの返答、意志表示困難な利用者の場合は反応、表情、態度を記録している。この情報からケアマネジャーが利用者の思いを汲取り、ケアプランに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族やご利用者から生活歴や日頃の暮らしぶりを聞き、これまでの生活について情報を得ながら、個人の生活を大切に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご利用者の現状を把握して、ひとりひとりの1日の過ごし方を一緒に考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご利用者の残存機能を活かした自立支援にむけて、常時カンファレンスを開催してモニタリングに反映している。結果を介護計画の作成に生かして、半年から1年の期間で見直しをしている。	・利用者一人一人の「申送りノート」に、関係する複数の職員が、自分の意見も付け経過を記録しており、それをケアマネージャーが月々まとめ、カンファレンスを開いている。ケアプラン見直しは、半年ごとに行うが、必要な際は随時行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録を個別に記入して職員同士情報を共有しながら、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族のニーズや本人の状況に合わせて、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・自治会、地域包括支援センター、地域住民、在宅支援医療センター、職員が参加する運営推進会議を開催し、地域ボランティアなどと協働して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・サービス開始以前のかかりつけ医に継続してかかってもらっている。家族の依頼により、通院の支援を行っている。また、通院が困難なご利用者には、在宅支援医療センターとの連携により、往診をお願いしている。	・現在利用者（登録者）全員がかかりつけ医を続けており、「泊り」の際の体調急変の場合は状況により救急車を呼ぶか、家族に連絡し、かかりつけ医での対応を行う。通院は家族同行で行うが、必要な際は職員が通院支援を行うことがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日常の健康管理について、気軽に相談できる支援も顔なじみの看護師に相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療機関と連携を密にして、早期退院にむけ情報交換、相談に努め支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・終末期のあり方について、ご家族やご本人と話し合いを持って、事業所でできることを説明し、在宅支援診療所、訪問看護ステーションと連携をとって、ターミナルを行った。今後も、要望があれば、取り組んで行きたい。	・設置法人作成の「ターミナル指針」があり、全幹部、施設長クラスの研修を終了し、現在職員クラス研修を進めている。当事業所はこの指針に則り、利用者が医療、訪問看護の連携が確立している場合に限り、「泊り」を提供し対応している。	・ターミナルケアの「メンタルサポート」について設置法人講師による施設内研修は実施済みです。メンタルサポートの対象は利用者、家族、職員自身と範囲が広く、職員のさらなる研修が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時マニュアルがあり、全職員は応急手当や初期対応について研修を行っており、実践力を身につけるよう努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災訓練を消防署の指導のもと、年に1回、夜間想定訓練を年に1回行っており、消火器の使い方も訓練している。 ・最低1日は、全利用者が通ってきても大丈夫な程度の備蓄品を揃えている。	・利用者全員が真鶴町に居住し、有事には家族の協力も期待できる。また、2階高齢者住宅に家族が住んでいる近隣商店街の人や自治会も、有事の際の駆けつけを約束している。毎日の来所利用者数換算で3日分以上の非常食をリスト化し、備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者に対して、利用開始時契約書にて「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を約束している。また、全職員は、自尊心を大事にした言葉かけをしている。	・職員は接遇やプライバシーの研修を受け、利用者の人格を尊重し、自分の親を見るように、一人ひとりとコミュニケーションを取りながら言葉かけをするように心がけている。 ・個人情報の書類は施錠をして保管をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で、毎日の過ごし方洋服など自分の思いを表せるよう働きかけ、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者は、自分のペースで過ごして、職員はそれとなく見守りをして自分らしい生活を過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。また、理美容は、本人の望むようにしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理レクなどを通して、調理を楽しんでいただくとともに、月に1～2回の外食会や出前などで、好きなものを召し上がってもらい、食事を楽しんでいただいている。片付けを手伝っていただけると利用者には、積極的にお願いしている。	・利用者との会話の中から食事の希望や好みを把握し、毎月調理レクレーションを通して餃子作り、鍋パーティ等を楽しんでいる。 ・利用者は職員と一緒にできる範囲で、下準備や片付け等を手伝っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人一人の状態を常に観察し、今までの習慣などを家庭におききして、水分量や食事を適量確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・全職員は、口腔ケアの大切さを理解し、声かけ、見守り、一部介助にて口腔ケアを励行し、清潔保持努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・ひとりひとりの排泄パターンをつかみ、誘導することにより極力布パンツの利用を心がけている。 プライバシー保護に努めている。	・意思表示の困難な利用者の場合はしぐさなどで察してトイレ誘導している。ほとんどの利用者は自発的にトイレに行くことができるので、職員は利用者の安全面に気を付けながら自立の妨げにならないように見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・利用者には、なるべく身体を動かしてもらい、また、繊維質の多い野菜中心の献立を心がけるなど工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・入浴は基本的に週3回であるが、希望により通いの日毎日入浴も実施して、入浴剤やゆず、菖蒲など季節感を大切にしている。	・入浴は利用者の通いや泊まりの日に週3回を基本としている。 ・心身の状況によりシャワー浴での介助をしている。入浴中は肩にかけ湯をしたり、利用者の好みの湯温や入浴の時間の長さを把握し、心地良く入れるように支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・不安等により夜間休めない利用者には、職員が話し相手になったり、個々の生活習慣を大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は、個々に使用している薬について常に勉強をおこなっており、目的や副作用について勉強している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者の生活歴や能力に応じて、ハリのある生活ができるよう、支援している。また、気分転換ができるように、外出訓練やボランティアによるイベントなど月に1～2回行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日には、ドライブなど行い、また、月に1～2回は花見などの外出レクを行ったり、外食会を開いている。家族が一緒に行くこともある。利用者は楽しみにしている。	・職員は買い物や用事で外出する時には、利用者に声を掛けてドライブに誘い、外に出る工夫をしている。外出レクリエーションで花見、水族館、箱根関所など、車の都合がつくときは家族も一緒に出掛けて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者は、個々にお金を保持しており、地域の祭りなど好きな時に好きなように使うことができる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	。携帯電話を持ち、家族と連絡を取り合っている方もいる。 近所の方からの電話も取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングは、常に季節感のある飾りを取り入れており、テレビを見たり、気ままに会話をして、思い思いにくつろいでもらっている。	・玄関やリビングにはケースに入ったお雛様や職員と作った作品などが季節ごとに飾られ季節感を取り入れている。 ・リビングは明るく、温湿度はこまめに調整し、椅子やソファは利用者がくつろげるように配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・横になりたい方には、ソファで横になってもらったりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ショートのお部屋では、利用者様自身の寝巻きを持ってきてもらったり、日常の生活で使っているものを持ってきてもらって、くつろいでいただいている。	・泊まりの部屋にはベッド、エアコン、チェスト、カーテン、寝具が備えられている。利用者は寝巻き、着替え、日用品などを持ち込み、家庭の延長として居心地良く暮らせるようにしている。部屋の清掃は行き届き、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーを意識した建物で、手すりの設置は無論のこと、車椅子やシルバーカーの使用ができるよう工夫されている。		

